

知って備える 防災メモ

第95回



1月17日は何の日か知っていますか

平成7年1月17日に発生した『阪神・淡路大震災』。

この大災害をきっかけとして、災害時におけるボランティア活動や自主的な防災活動についての認識を深め、災害への備えの充実強化を図るため、1月17日を『防災とボランティアの日』、1月15日から21日までを『防災とボランティア週間』と定められています。

被災地を支えるボランティア活動

平成30年9月の北海道胆振東部地震では、延べ1万3千782人（令和2年10月末時点）が、避難所支援や片付け、泥出し、食糧の配達など、被災地におけるニーズに対応したさまざまな活動を行いました。

こうしたボランティア活動が、被災地を支えており、今日においても、災害時等のボランティア活動は、災害復旧で重要な役割を担っています。

地域の安全を守る自主防災組織

非常に強い地震など、災害が発生した直後においては、人命を守り、可能な限り、被害を最小限に抑えることが

重要となります。

家屋の倒壊や火災など、二次災害から、いち早く避難することが、被害を抑えることにつながりますが、大規模な災害になればなるほど、交通網の寸断や通信の遮断などが発生することが多く、消防隊などによる救助までに時間を要する可能性が高くなります。

そのようなとき、地域で生活する人々の助け合いが大切となります。

令和2年12月現在、市内には、『自分たちの地域は自分達で守る』という共助の意識のもと、地域の人々が自主的に防災活動を行う39の『自主防災組織』が設立されています。

市民一人ひとりが、災害を正しく恐れ、『自分の命は自分で守る』という意識を強く持つことが、基本ではあります。その次には、可能な範囲で、地域を守る意識を持っていただくことで、さらなる災害に強いまちへとつながっていきます。

▼問い合わせ

総務グループ (☎01130)

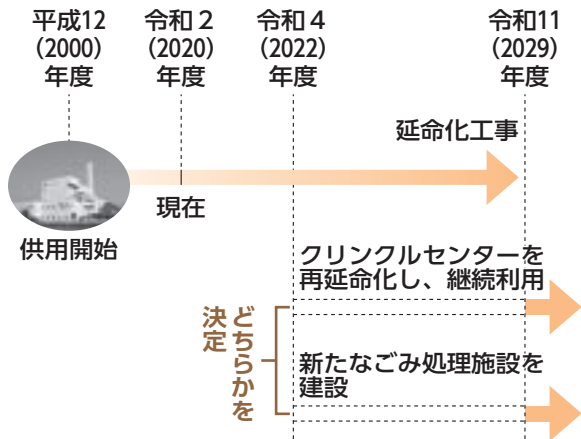
ごみ処理施設の 未来

～令和12年度以降のクリンクルセンターについて～

▶ 問い合わせ 環境対策グループ (☎02958)

当市と白老町とで広域処理を行っているクリンクルセンターは、平成22年度から計画的に改修工事を行い、令和11年度まで稼働できるよう、施設の延命化を図っています。

令和12年度以降については、施設改修費や運営管理費など、さまざまな条件を整理した上で、さらなる延命化か、新しくごみ処理施設を建設するか、どちらが良いかを検討し、白老町とも連携を図りながら、総合的に判断していくこととなります。



ごみ処理施設の在り方は、市民の皆さんの生活に大きく関わる問題ですので、市公式ウェブサイトなどを活用した情報発信はもちろん、皆さんにご意見を伺う機会を設け、議論を重ねながら、令和4年度中に市の方針を決定する予定です。

未来のために『ごみの減量化』

令和12年度以降に向けた議論の結果にかかわらず、いずれは、新しいごみ処理施設を建設する時期を迎えることとなります。

ごみの量を少なくすることで、ごみ処理施設の規模を小さくすることが可能となり、将来のごみ処理施設の建設費や施設の維持管理にかかる費用の抑制につながります。4月のごみ関連手数料改定を機に、さらなるごみの減量化に取り組んでみませんか。

具体的な取り組みの例

- 食品トレーなどは、市内スーパーの店頭に設置されている回収ボックスを利用する
- 新聞紙や紙製容器包装は、町内会などが行っている資源回収を利用する
- 食べ残しを減らす
- 生ごみの水切りを徹底する